

山澤慧ソロ・チェロリサイタル

マインドツリー

バッハツィクルス6(全6回)

vol.11

Program

J.S.Bach (1685-1750) : 無伴奏チェロ組曲第6番二長調 BWV1012

梅本佑利 (2002-) : 委嘱新作 (6年連続委嘱6作品目)

山根明季子 (1982-) : Time Layered Music (委嘱新作)

A.Ratoci (1970-) : INTRADA (公募作品)

久保哲朗 (1992-) : 空間における連続性の唯一の形態 (2020/2025 改訂初演)

野平一郎 (1953-) : 謎 (2006)

I.Xenakis (1922-) : Kottos (1977)

エレクトロニクス : 有馬純寿

2025/

6/19(木)19:00 開演 18:30 開場

トーキョーコンサーツ・ラボ 東京都新宿区西早稲田 2-3-18

全席自由 一般 4,000円 学生 2,500円 (当日各500円増し)

お問合せ : 東京コンサーツ 03(3200)9755 (平日 10:00-18:00)

主催 : 山澤慧 制作協力 : 東京コンサーツ

助成 : 公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 [東京芸術文化創造発信助成]

チケットお申し込み



©Ayane Shindo

山澤慧ソロ・チェロリサイタル

マインドツリー vol.11 バッハツィクルス6(全6回)

山澤慧の独奏によるチェロリサイタルシリーズ「マインドツリー」の第11回目は、2020年からシリーズの一環として毎年続けてきた「バッハツィクルス」としては最終回を迎えます。バッハツィクルスでは毎回1曲のバッハの無伴奏チェロ組曲をテーマにプログラムを考えています。最終回となる第6回のテーマは、無伴奏チェロ組曲第6番二長調です。5弦のチェロのために書かれた楽曲で、全6曲あるバッハの組曲の中でも最も規模の大きな作品です。

このシリーズの大きな特徴の一つは、2002年生まれの新進気鋭の作曲家、梅本佑利氏に6年連続で委嘱を続けていることです。1年目には「スーパーバッハボーイ」という、ゲームのスーパーマリオとバッハの無伴奏チェロ組曲第1番を融合させたユニークな作品を演奏しました。

この作品や、3年目に発表された「萌え2少女」などは、ドイツの音楽祭でも演奏されています。さらに、もう一人の作曲家、山根明季子さんにも新作を書いていただきます。

バッハツィクルスの開始当初から、最終回には彼女に作品を書いてほしいと考えており、その夢がついに実現しました。エレクトロニクスの有馬純寿さんの協力も得て、会場でしか味わえない特別な体験ができることでしょう。

また、野平一郎氏の「謎」は、委嘱者であるジャン・ギアン・ケラスの「バッハの第6番に繋がる曲を」というリクエストに応えて書かれました。

久保哲朗氏の「空間における連続性の唯一の形態」は、山澤が出演した「B→C バッハからコンテンポラリーへ」にて委嘱初演しました。ポッチョーニの彫刻からインスピレーションを得た作品です。

毎回、ツィクルスでは公募を行っており、今回は30カ国・地域から90作品を超える応募がありました。その中から「In the spirit of a Bach's polyphony」とタイトルに書かれたAlessandro Ratoci作品を選びました。プログラムの最後には、20世紀で最も重要なチェロ曲の一つ、クセナキスの「Kottos」が演奏されます。他では体験できないチェロリサイタル、是非ご来場ください。

山澤慧

山澤慧 やまざわけい

古典作品の勉強を地道に重ねながら、現代音楽の演奏や作曲家への委嘱を積極的に行い、チェロの可能性を探求し続けている。2015年以降、20世紀以降に書かれた無伴奏チェロ曲のみを集めたリサイタルシリーズ「マインドツリー」を毎年開催。2021年には新シリーズ「邦人作曲家による作品集」をスタートさせた。

第10回ビバホールチェロコンクール第3位。第2回秋吉台音楽コンクールチェロ部門第1位。

第11回現代音楽演奏コンクール"競楽XI"第1位、第24回朝日現代音楽賞受賞。

音川健二、藤沢俊樹、河野文昭、西谷牧人、鈴木秀美、山崎伸子の各氏に師事。

文化庁新進芸術家海外研修員として、フランクフルトにてアンサンブル・モデルンのチェロ奏者、Michael Kasper氏に師事。

藝大フィルハーモニア管弦楽団首席チェロ奏者、千葉交響楽団契約首席チェロ奏者。